

平成31年1月31日(木)

老球の細道460号

1月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「日々新たなり」の気持ちで生活するためにも1年のスタートが大切である。しかし、大学授業では学生には卓球でボコボコにされ、孫娘には国旗カルタでコテンパンにやっつけられた。三浦雄一郎も次の更なる挑戦に向けてアコンカグア登頂を断念したが、私もあきらめてはいけない。体力をつけ、気力を充実させて、努力を継続させれば猛進できる。

1・読書から

◆「最良の生活とは、その大部分がさまざまな創造衝動に基づいて築かれた生活であり、最悪の生活とは、その大部分が所有欲に発しているような生活である」(『人類の知的遺産・ラッセル』・講談社)

毎月頑張っても、頑張らなくても定期的に入る月給がなくなってから所有欲は急激に低下。その代わりにバスケットクリニックにおける準備において、新しいドリルを考えたり、指導法を工夫したりすることを考えることで毎日が刺激的。ピンボーだけドラムボー。

2・新聞、雑誌のコラム等から

◆「理想は絶えることなく語られなければならない。なぜならそれは人間の思考がはじまる本質的な基盤だからだ、とE・H・カーは説く」(朝日・社説)

今は昔学校で先輩教師に理想論をぶっつけたが、「結果を出せ」と何度もつぶされ孤立した。毎日理想と現実の狭間で生きているが、どんなに現実が厳しくなっても理想を語ることを忘れてはいけない。夢は見るもの、理想は近づくもの、目標は必ず達成するもの。

◆「強化の流れに間違いはなかったが、私自身チャレンジする意識が下がっていた。進化を止めた時点で退化になると痛感した」(朝日・箱根駅伝・青学大原監督)

「勝った」「これでよし」と思った瞬間、ゲームの流れが逆転することがある。「なりうる最高の自分」を目指す限りにおいては「これでよし」は棺桶に片足を入れた時。

◆「逆転できるのは、逆転できると信じている人だけだ」(朝日・センター試験広告)

信は力なり。自分が本当に信じていることしか本物の力にはならない、相手には伝わらない。間違っていることでも、信じていれば力になることもある。

◆「スポーツは人生を楽しくできる。特に若い人々に教えるのが私の役目です」(朝日・ひと・サミラ・アスガリ)

アフガニスタンから選ばれた史上最年少のIOC女性委員の言葉。戦争が絶えない母国でバスケットボール代表チームの主将を務める。バスケットボールが戦争を忘れさせてくれたと語る。百井杯で母と子の対決試合があった。夕食時には家族で盛り上がっただろう。

◆「努力は100%でなければ意味がない。50%や70%で満足しては力がかない。そして大切で、かつ難しいのは、その努力を継続することだ」(朝日・ラグビー日本代表前監督エディー・ジョーンズ)

世の中は何事においても無理しない、皆同じようにという風潮が強まっている。当たり前のことだが、ひとそれぞれ能力や才能は違う。才能が劣っている者が勝っている者に勝つには神様や幸運を当てにするわけにはいかない。本人の努力あるのみである。努力は継続して力になる。継続させる原動力は「好きで好きでしかたがない」という情熱である。